

## 2023 年度予算案と夢洲におけるインフラ整備

大阪市は 14 日、総額 1 兆 9088 億円の 2023 年度一般会計当初予算案を発表した。22 年度に比べ 669 億円増え、3 年連続の増加に。予算案をどう読むか。とりあえず、万博と IR カジノに関わる夢洲におけるインフラ整備をチェックしておきたい。

夢洲地区の土地造成・基盤整備事業は 233 億 3200 万円(うち一般会計 70 億 2100 万円)。インフラ整備は夢洲地区における基盤整備 84 億 7400 万円、鉄道・道路・海上アクセス整備 148 億 5800 万円。基盤整備は夢洲域内交通の円滑な処理を実現する観光外周道路の整備工事等、夢洲域内の物流と観光の動線を分離するための高架道路の整備工事、夢洲地区等の上下水道の整備工事、駅前施設の整備工事。

アクセス整備は鉄道(南ルート(北港テクノポート線))の整備工事、夢洲幹線道路、舞洲幹線道路の拡幅工事(6 車線化)、舞洲東交差点立体交差化に向けた整備工事等、咲洲コスモ北線の道路交通騒音対策、浮棧橋整備に伴う波除堤の整備工事、待合所等設計・整備工事。

夢洲物流車両の交通円滑化に向けた対策として、4 億 1900 万円が計上されている。ICT を活用したゲート処理業務の迅速化等によりゲート前混雑の解消を図る新たな港湾情報システム(コンパス)の導入、夢洲発着のコンテナ車両削減に資する空コンテナ返却場所一時移転の実施に向けた用地整備工事、夢洲護岸への係船設備設計業務及び社会実験などである。

港営事業会計の資本的支出、大阪港埋立事業では、国際博覧会の開催及び IR を含む国際観光拠点形成(国際物流拠点の機能強化を含む)に向けた夢洲地区の土地造成・基盤整備事業 204 億 9914 億円などが計上されている。



ところで 2022 年度予算で大きな議論を呼んだのが、夢洲の IR 用地土地対策 788 億円の債務負担行為である。22 年度港営事業会計予算に関する説明書、債務負担行為に関する調書には、新規提出分として、「大阪・夢洲地区特定複合観光施設用地に係る土地改良事業」の支払義務発生予定額は、期間 2023～33 年度、金額 788 億円、その財源内訳は企業債となっている。

大阪府は IR 区域整備計画を昨年 4 月、国に認可申請した。夢洲の土壌問題などで、認可はまだ下りていない。当然 788 億円の債務負担行為は予算化されていないが、念のため大阪港湾局に電話で確認した。10 年間の期間だが、23 年度は予算化していない。今後、国が認可すれば補正予算で債務負担行為が予算計上されることが予想される。

(2023 年 2 月 20 日)